

博士論文要旨

| | | | |
|---|---|----|-------|
| 学籍番号 | 1220001 | 氏名 | 浅井 恵理 |
| 論文題目 | 心不全とともに生きる人がその人らしく生きることを支える看護のあり方に関する研究 | | |
| <p>目的：本研究の目的は、心不全とともに生きる人が、心不全のどのステージにおいても、どの療養場所においても、その人らしく生きるために適切な支援を受けられるよう、在宅療養生活を支える外来を基点とした方策を検討・実践することを通して、心不全とともに生きる人がその人らしく生きることを支える看護のあり方を検討することである。</p> <p>方法：本研究は3つの研究から構成される。【研究1】対象施設に外来通院中の入退院を繰り返す心不全とともに生きる人が病とともに生きる現状と、対象施設の看護実践の現状から課題を明らかにする。先駆的に取り組んでいる施設の現状と、学習会後の質問紙調査から、課題解決に向けた方策を検討する資料を得る。そして、課題を解決するための方策を検討する。【研究2】決定した方策に基づき、対象施設に外来通院中の入退院を繰り返す心不全とともに生きる人とその家族に対し支援を実施する。その後、支援を受けた対象者から評価を得て、取り組みメンバーの看護師とともに評価を行う。【研究3】対象施設の看護師から意見をえて取り組みを評価する。</p> <p>倫理的配慮：研究協力者に、研究の目的や方法、研究への協力は自由意思であることや匿名性の保障等について、書面を用いて口頭で説明し、同意を得た。本研究は、岐阜県立看護大学大学院看護学研究科論文倫理審査部会の承認を得て実施した（承認年月：2021年4月、通知番号2021-A003D-2）。</p> <p>結果：【研究1】外来通院中の対象者3名への面接調査の結果、対象者は長年心不全とともに生きていることから、自分なりに工夫して心不全管理を実践していた。一方で、治療に対する困難感や今後の見通しの曖昧さに対し、自分ではどうにもならないという思いを抱えていた。内科外来看護師は、心不全患者に意図的に介入できていない現状を課題として捉え、他部署の看護師は、治療上の制限をどこまで求めるかの判断の難しさを感じ、課題として捉えていた。現状より明らかとなった課題についてコアメンバーと2回検討し、方策を決定した。【研究2】決定した方策に基づき対象者3名に実践した。取り組み開始時に、対象者のその人らしく生きることを支える看護の方向性を取り組みメンバー間で共有したことで、価値観を尊重した意図的な介入の重要性を確認できた。そして、心不全とともに生きる人の言動の理由・真意の把握に努め、継続して実現可能なセルフケアの方法をともに検討すること等の必要性が明らかとなった。【研究3】取り組みにより、心不全とともに生きる人の思い・実情を理解できたとともに、思いを捉えるためには援助者個々の能力向上と体制整備が必要であることが確認できた。</p> <p>考察：心不全とともに生きる人がその人らしく生きることを支える看護として、「心不全とともに生きる人の実情を理解すること」「思いを表出してもらえような関係性を構築すること」「価値観に基づいた生活調整を尊重し支援すること」「実践しているセルフケアを保障すること」が重要であると考え。看護師による意図的な介入の結果、心不全とともに生きる人自身が自分の価値観を再認識し、この先どのように生きていきたいのか、そのためにはどのような生活調整を行えると良いのか、自己決定しながら心不全とともに生きていく。そのため看護師には、思いを表出してもらえような環境づくり、看護実践の意義を評価し発展させる役割があると考え。</p> | | | |

(別記様式 7)

番 号 :

令和 6 年 2 月 1 4 日

令和 5 年度博士論文審査結果報告書

主 査 森 仁実

副 査 藤澤 まこと

副 査 奥村 美奈子

令和 5 年度博士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、下記のとおりです。

記

学籍番号 : 1 2 2 0 0 0 1

氏 名 : 浅井 恵理

審査結果 : (1.) 合格 2. 不合格 3. 保留

[審査結果要旨]

(1,000 字以内)

論文題目「心不全とともに生きる人がその人らしく生きることを支える看護のあり方に関する研究」は、心不全とともに生きる人が、心不全のどのステージにおいてもどの療養場所においても、その人らしく生きるために適切な支援が受けられるよう、在宅療養生活を支える外来を基点とした方策を検討・実践することを通して、心不全とともに生きる人がその人らしく生きることを支える看護のあり方を追究した研究である。

まず学生は、研修施設の外来通院中の入退院を繰り返す患者 3 名への面接調査により心不全とともに生きる現状を、看護師（内科外来 3 名・他部署 5 名）への面接調査により看護実践の現状を把握し、6 つの看護実践上の課題を明確にした。先駆的に取り組む施設の支援の現状、学習会後の意見を踏まえてコアメンバーと検討し、6 つの課題解決の方策を策定した。次に患者 3 名に方策を実践し、患者からの評価も含めてコアメンバー等と実践を評価し、7 つの方策に改定した。そして取り組みの評価より、思いを捉えることの重要性が認識され、援助者個々の能力が向上したこと等を確認した。以上を通して、心不全とともに生きる人の「その人らしく生きる」を捉えること、実情を理解すること、自己決定を支えること、多職種の連携・協働を図ることがその人らしく生きることを支える看護のあり方であり、在宅療養を支える外来を基点とした継続支援を行うこと、看護の充実に力を発揮できる人材を育成することが看護体制のあり方であることを提言した。

以上の過程は的確にデータ化され論述されており、心不全とともに生きる人がその人らしく生きることを支える看護の充実に貢献する研究として高く評価できる。審査委員会では、これらの取り組みは本研究科の倫理基準に基づいて実施されており、論旨が明確で一貫性があり、博士論文審査基準に適合するものであることを確認した。当該学生は審査委員会に 3 回出席し、主査・副査からの質問に答え、かつ直接指導を受け最終試験に合格した。

以上のことから、本論文は博士論文として価値あるものと認める。